

《担当者名》巻 康弘 maki@hoku-iryo-u.ac.jp

【概 要】

医療を取り巻く動向、諸制度の理解について医療保険制度や診療報酬制度の理解を行う。加えて、「病い」と共に生きるクライアントの特性理解を踏まえた、医療専門職と社会福祉士の役割を理解する。また、講義展開にあたっては、適時模擬事例を用いて、ソーシャルワーカーとしての判断や行動について検討する。

【学修目標】

1. 保健医療分野のクライアント特性とソーシャルワーク支援のあり方が説明できる。
2. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を説明できる。
3. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて説明できる。
4. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際を説明できる。
5. 地域包括ケアにおける多機関・多職種による連携・協働を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 保健医療の課題を持つ人の理解	・健康の定義(WHO)を説明できる。 ・人生における生活者にとっての病いの意味について説明できる。 ・病を持つことによって生じる患者と家族にとっての生活への影響を説明できる。 ・Bio-Psycho-Socialモデルについて説明できる。	巻
2	医療ソーシャルワークの歴史と役割	・医療ソーシャルワークの歴史を説明できる。 ・医療ソーシャルワーカーの役割が説明できる。	巻
3	保健医療に係る倫理と倫理的課題	・医療倫理の4原則を説明できる。 ・保健医療に係る倫理的課題の検討ができる。 ・患者の権利について概説できる。	巻
4	意思決定と意思決定支援	・医師－患者関係について説明できる。 ・保健医療の場における自己決定権の尊重の意義について説明できる。 ・意思決定に係る関係概念が説明できる。(インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、アドバンスケアプランニング)	巻
5	保健医療の動向	・疾病構造の変化(感染症の減少、生活習慣病の増加など)について説明できる。 ・地域完結型医療について説明できる。 ・保健医療対策(医療計画、5疾病6事業)の概要について説明できる。	巻
6	医療施設の概要と在宅医療	・病院(特定機能病院、地域医療支援病院等)、診療所、保健所の役割を説明できる。 ・病床の機能分化について説明できる。 ・在宅医療の役割と課題を例示できる。	巻
7	ソーシャルワークと経済的保障 (1) 医療保険・診療報酬制度	・医療費の自己負担や保険料の減免制度について説明できる。 ・診療報酬制度の体系が説明できる。	巻
8	ソーシャルワークと経済的保障 (2) 医療保険制度の活用	・治療拒否事例が抱える経済的課題を指摘できる。 ・模擬事例を用いて、高額療養費制度・傷病手当金の活用可能性を説明できる。	巻
9	保健医療分野における社会福祉士の役割	・医療ソーシャルワーカーの業務指針(業務の範囲・方法)を説明できる。	巻
10	身寄りがいなくて何が悪い～医療ソーシャルワーカーの実践～	・保健医療領域における支援の実際が説明できる。 ・身寄りがいない患者に生ずる困難を例示できる。 ・身寄りがいない患者との医療ソーシャルワーカーの実践の実際を知る。	不動宏平(特別講師) 巻

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	医療ソーシャルワーカー倫理綱領	・医療ソーシャルワーカーの倫理綱領の概要について説明できる。 ・保健医療における福祉的課題をもとに倫理的な行動について検討できる。	巻
12	医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築	・マトリクス組織について説明できる。 ・業務管理と業務評価の概要が説明できる。 ・ソーシャルワーカーの病院内での実践構造について説明できる。	巻
13	保健医療分野における専門職と多職種連携	・医療関連専門職の役割について説明できる。 (医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士・介護支援専門員など) ・院内連携の構造と方法について説明できる。 ・多職種チームモデルについて説明できる。	巻
14	医療資源が少なくても暮らせる地域を創る～医療ソーシャルワーカーによる地域介入～	・限りある医療資源を効果的に活用できる地域を創るための戦略を知ることができる。 ・医療ソーシャルワークにおけるコーディネート機能の実際が説明できる。 ・医療・介護連携支援センターの機能と実践が例示できる。	関 建久（特別講師） 巻
15	地域包括ケアにおける医療ソーシャルワーカーの役割	・地域医療連携(病診連携、病病連携)の概要と方法について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける多機関連携の概要について説明できる。 ・全体のまとめ	巻

【授業実施形態】

面接授業

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験(80%)、提出物(20%)等を総合的に評価する。

【教科書】

(編) 社会福祉士養成講座編集委員会 (2025) 『保健医療と福祉 第2版』中央法規。

【参考書】

NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会編(2025)「2025年度版医療福祉相談ガイドブック」明石書店
 児島美都子 監 成清美治・竹中麻由美・大野まどか 編(2020)『保健医療と福祉』学文社
 宇田川元一(2019)『他者と働く～「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング。
 エイミー・C・エドモンドソン(2014)『チームが機能するとはどういうことか』英治出版

【備考】

1. 社会福祉士国家試験受験資格取得のための「保健医療と福祉」に該当する。
2. 介護福祉士国家試験受験資格取得のための「社会の理解（選択）」に該当する。
3. 教職課程（福祉）では、教科に関する科目の「社会福祉援助技術」に該当する。
4. GoogleClassroomを利用して学習課題の提示、最新情報の情報提供を行う。

【学修の準備】

1. 講義で示す次回の授業内容について、関心を具体化するとともに、専門用語を調べておくこと。(予習1時間)
2. 講義でふれる知識や情報についての復習を行うこと。(復習1時間)
3. 他の講義・演習・実習指導での学習内容と関連させ、つながりが説明できるようにすること。(予習復習1時間)
4. 講義でも紹介するが、変化する医療・福祉の政策動向について調べること。(予習復習1時間)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2: 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP4: 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【講義の受講にあたって】

1. 授業内で、他の学生との意見交換による授業内容に対する自らのイメージや考えを具体化することを求める。
2. 講義毎にリアクションペーパー（理解したこと、疑問、自ら考えたこと等）の記載を求める。
3. 受講にあたっては、「自ら感じ、考える」ことを意識し、その内容をリアクションペーパーに記載すること。
4. リアクションペーパー記載内容に対し、次回の講義で必要に応じ解説する。

【実務経験】

社会福祉士、認定社会福祉士（医療分野）、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

【実務経験を活かした教育内容】

病院・相談機関での医療ソーシャルワーカー(社会福祉士等)としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している